

下肢静脈疾患における圧迫療法のポイント

佐賀大学医学部附属病院 リンパ浮腫外来

渡辺 直子

弾性ストッキングや弾性包帯を使用した圧迫療法は、リンパ浮腫や静脈疾患において有効な治療法です。しかし、誤った使用により、十分な効果を得られていないことも多く、場合によっては医療機器関連皮膚障害や、神経障害、下肢の変形等を招く場合もあります。

本来、リンパ浮腫の治療である、圧迫療法の習得には多くの時間を要します。国際リンパ学会ではリンパドレナージと合わせて90時間以上の実技学習を推奨しているほどです。しかし、適切な圧迫圧と皮膚保護を踏まえた、圧迫方法を習得することで、潰瘍形成事例や静脈瘤術直後の圧迫、また、変形や周径などにより、弾性ストッキング着用困難事例にも対応できるようになります。

是非、皮膚・血管・リンパ管・神経に配慮した圧迫方法をマスターして、浮腫み足に強いフットケアナースになりましょう！

今回は入門編として、各疾患別の圧迫方法を紹介するとともに、下肢静脈疾患への対応としての、下腿までの圧迫包帯を実際に行い、①圧迫包帯法前のスキンケアと基本の包帯法を知る②自分の圧迫時の包帯圧に気付く。を目標にセミナーを行います。この2つの実践を通して、何か一つでもつかんで頂き、最少圧で最大の効果をもたらす圧迫法へ一歩踏み出すきっかけとなればと思います。

— まずは、とにかく、巻いてみらんね！—